

※ 網掛けのない部分が評価計画、網掛けの部分が評価結果を受けて記入する。

1 教育目標（目指す児童像含む）

(1) 基本目標

「人間尊重の精神」を基盤に、激しい変化が予想される21世紀社会の担い手として、「心身共に健康で、主体的に考え表現でき、粘り強くがんばりぬき、自らの向上とよりよい社会の発展を目指し、たくましく生きる人間」の育成を図る。

(2) 具体目標（目指す児童像）

- ・ 進んで学びよく考える子ども（学びの主体性、知識・技能、思考・判断・表現）
- ・ 思いやりがあり心豊かな子ども（生命尊重、豊かな心情、多様性の尊重）
- ・ 元気でがんばる子ども（心身の健康、たくましさ）

《 児童の合言葉 「かしこく なかよく たくましく」 》

2 学校経営の理念（目指す学校像含む）

（目指す学校像） 活気のある 学び合う 保護者・地域と共に歩む

（目指す教職員像） 教育愛のある 子供と共に歩む 互いに高め合う

学校は共に学ぶ場である。これからの社会では、変化を前向きに受け止め、多様な人々と協働しながら価値を創造したり、持続可能な社会の創り手として社会の形成に参画したりすることが重要となり、自分から進んで他者と関わり、異なる考えから新たな発想を生み出すような創造的な学びが求められている。それを実現するために、安全な学校生活が送れるように整備された、ゆとりと潤いのある環境のもとで、児童が主体的に学び、他者と関わりながら協働的に学びを深め、高め合うことができるようにしたい。それらの学びを通して、児童一人一人の中に自己実現の喜びや自己肯定感などを育むことができれば、結果として、児童の笑顔が輝く楽しい学校につながるものと考ええる。また、児童だけでなく、その成長を支える教職員も保護者も地域も共に学び育ち合う場としての学校でありたい。共に学び合い、成長していく場としての学校づくりが重要である。

この基本理念を達成するためには、教職員一人一人が教育公務員としての高い使命感のもと、組織の一員としての自覚をもち、互いに切磋琢磨し、学校教育目標の達成に向けて一致協力して諸活動に取り組む姿勢が望まれる。また、積極的な情報発信に基づく深い共通理解のもと、保護者や地域との連携を一層推進し、地域に根ざした特色ある教育活動を展開することが求められている。さらには、本市「小中一貫教育」の基本理念を踏まえて、地域学校園間での連携を中核とした異校種間交流の推進も重要である。

学校経営の理念「共に学び合う学校づくり」を軸とし、次項目のような経営方針を設定し、それらを具体化するために「確かな学力の向上」、「豊かな心の育成」、「健やかな体の育成」、「好ましい生活態度の涵養」、「保護者・地域との連携」、「教職員の資質・能力の向上」に取り組み、施設の安全管理・予算の適切な運用に基づきながら教育目標の具現化を目指すことにする。

3 学校経営の方針（中期的視点）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針は文頭に○印を付ける。

- (1) 児童及び地域の実態を踏まえ、知・徳・体の調和を図りながら、社会に開かれた教育課程を編成して資質・能力を育み、教育目標の実現に努める。
- (2) 教職員の共通理解のもと、児童の主体性を育て、よさや可能性を発揮したり協働したりできる学校づくりに努める。
- (3) 職員が日々の研究と修養に努めることを推進するとともに、同僚性と自律性を基盤にした職場づくりに努める。
- (4) ○地域学校園内の小中学校及び地域との連携を深め、義務教育9年間を見とおした系統的・継続的な指導の充実に努める。
- (5) 地域とともにある学校づくりを推進し、家庭・地域・関係機関との連携協力体制の強化に努める。
- (6) 学校教育目標達成のために、校内業務の適正化(明確化や簡略化等)を図り、教職員の健康安全を大切にし、指導の質的向上に配慮しつつ持続可能な学校体制づくりに努める。

【豊郷地域学校園教育ビジョン】

豊かな郷の生き生きとした子供の育成

4 教育課程編成の方針

- (1) 日本国憲法、教育基本法、学校教育法及び同施行規則、小学校学習指導要領、教育振興基本計画、栃木県・宇都宮市教育委員会の方針(重点等を含む)等の示すところに従うとともに、本校の教育目標達成のための経営方針、本年度の本校の重点目標等を十分踏まえて編成する。
- (2) 児童の発達段階や各教科領域の特性を踏まえ、全教育活動をととして「心身ともに健康で、主体的に考え表現でき、粘り強く頑張りぬき、自らの向上とよりよい社会の発展を目指し、たくましく生きる人間」の育成を目指した教育課程を編成する。
- (3) 社会の変化に主体的に対応できる能力の育成や創造力の伸長を重視し、自ら学び、自ら考え、主体的に判断、行動し、よりよく問題解決する資質や能力を育てる教育課程を編成する。
- (4) 本校創立以来150年の歴史と伝統を踏まえ、学校・地域の特色、児童の実態などを考慮し、創意工夫された教育活動を展開することによって、人間性豊かな児童の育成を目指す。
- (5) 「地域から学ぶ学校」をテーマとして、特色ある学校づくりに取り組み、地域人材や地域素材の積極的な活用による体験活動を推進する。
- (6) 基礎・基本の定着と本校の特色を生かした教育の実施に向け、学習指導法の工夫・改善を図る。

- (7) 児童のよさを多面的に見取ったり、教師のよさや専門性をさらに生かしたりするために、全学年において可能な限り教科担任制を行ったり複数の教員で指導に当たったりする。
- (8) 「これからの時代に求められる資質・能力の育成」のため、教科横断的な視点に立って教育活動全般を見直し、カリキュラム・マネジメントの充実を図ることで改善に努める。また、現代的な諸課題に向き合い、解決を図ろうとする学習活動を充実させる。

5 今年度の重点目標（短期的視点）※「小中一貫教育・地域学校園」に関する重点目標は文頭に○印を付ける。

- (1) 学校運営
- ・ 学校経営のビジョンを教職員で共通理解し、課題に対して協働して取り組む体制づくりを進める。
 - 学校園の教育活動における小中一貫教育の取組を推進する。
- (2) 学習指導
- ・ 主体的に学び合い、伝え合う児童の育成を目指し、自分の考えを明確にして、伝えたいことを書いたり話したりして伝える力の向上と主体的な学びを支える基礎的・基本的な事項の確かな習得を図る。
 - 分かる授業の実践や、主体的に学ぶ態度の育成、学習習慣の定着などによる学力向上を図る。
 - ・ 特別支援教育の視点を取り入れた個に応じた指導の充実を図る。
- (3) 児童生徒指導
- ・ 自ら考え判断し、自他を大切にしながら望ましい人間関係を築く児童を育成する。
 - ・ 目標を立てて挑戦する児童の主体的な活動の充実を図り、自己有用感や自己肯定感を育むことを通して挑戦する心やあきらめない心などのたくましさを涵養する。
 - ・ 豊かな心（感謝の心を中心に）を育む。
 - ・ 規範意識、仲間意識の高揚を図る。
 - すべての教育活動を通して豊かな心と社会性の育成を図る。
- (4) 健康（体力・保健・食・安全）
- ・ 生涯にわたって心身ともに健康で安全な生活を送るための資質や能力を育成する。
 - 健康や体力への意識を高め、健やかな心と社会性の育成を図る。

6 自己評価 A1～A20は市共通評価指標 B1～は学校評価指標（小・中学校共通、地域学校園共通を含む）

※「主な具体的な取組の方向性」には、A拡充 B継続 C縮小・廃止、を自己評価時に記入

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所の下線を付ける。

第2次宇都宮市学校教育推進計画後期計画基本施策	評価項目	主な具体的な取組	方向性	評価
1-（1） 確かな学力を育む教育の推進	A1 児童は、他者と協力したり、必要な情報を集めたりして考えるなど、主体的に学習に取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケート肯定的割合 ⇒児童 85%以上	① 問題意識の醸成を図ったり、授業のめあてを確認・提示したりして、児童が進んで学習に取り組めるように工夫する。 ② 1人1台端末や図書資料等を有効に活用して、児童一人一人が必要な情報を取捨選択しながら考え、表現する活動を充実させる。 ③ 個人の学びを集団で練り上げる学び合いの場面では、考えの共通点や相違点に気付けるような追及活動を設定したり話し合いを深めるための視点を提示したりして、対話的で深い学びを実践する。	B	【達成状況】 児童の肯定的回答率 91.2% 数値指標を 6.2 ポイント上回った。 【次年度の方針】 ・今後も、学び方の具体的な方策を示したり、安心して自分の考えを表現できるような工夫をしたりするなど、児童が主体的に学び合う環境づくりを行うことで、対話的な学びを進めていく。また、課題について情報を収集し、まとめるなど探求的な学習を進めていく。
1-（2） 豊かな心を育む教育の推進	A2 児童は、思いやりの心をもっている。 【数値指標】 全体アンケート肯定的割合 ⇒児童 85%以上	① 自分の考えをもつとともに相手の考えや思いを尊重し、相互に共有し、高め合える関係づくりに努める。 ② 道徳、学級活動、帰りの会などを通して、互いのよさを認め合う心を育てる。 ③ 異学年間のふれあいの充実を図るために、学校行事・児童会・とよリンピック等の活動を工夫する。	B	【達成状況】 児童の肯定的回答率 92.8% 数値指標を 7.8 ポイント上回った。 【次年度の方針】 ・今後も、学校全体で互いに支え合い、励まし合える雰囲気づくりに努め、思いやりの心を育てていく。

	A 3 児童は、目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケート肯定的割合 ⇒児童 85%以上	① 教科学習や特別活動等の様々な場面で、児童一人一人にめあてをもたせ、指導し、それを評価させたり称賛しあったりさせることで、最後までがんばる心を育てる。 ② 道徳科の授業などにおいて、自分のよさや適性、将来の夢や目標について考えさせる。また、それに向かって努力することの大切さや尊さについて気付かせる。	【達成状況】 児童の肯定的回答率 92.0% 数値指標を 7.0 ポイント上回った。 【次年度の方針】 ・従前より実施している学期ごとの長期的な目標と、授業や学校行事等の中・短期的目標を適宜設定する。 ・取組みを定期的振り返り、活動の過程で達成するためには何が必要なのかを考える際に、教師が児童の取組みを称賛することはもとより、小集団等の学習形態を活用して協働的な学びの場を設定したり、互いの努力を称賛し励まし合う仲間づくりを意識した学級経営を行ったりする。 ・キャリアパスポートの活用をしていく。めあてに対して、具体的な取り組みを考え、スモールステップで達成に向けて頑張れるように継続的に称賛し合う。
1ー(3) 健康で安全な生活を実現する力を育む教育の推進	A 4 児童は、健康や安全に気を付けて生活している。 【数値指標】 全体アンケート肯定的割合 ⇒児童 90%以上	① <u>地域学校園の食育推進と、家庭との連携協力</u>により、地域の食材への関心や栄養に関する知識を深め、食に対する意識を高める。 ② 豊央ランナー、各種検定、豊央サーキット等の実施により、体力の向上を図る。 ③ 交通安全教室、避難訓練、引渡し訓練、自転車免許事業等を通して、正しい判断力と危機回避能力を育成する。 ④ 児童が、健康・安全に関する正しい知識を習得し生活に結び付けることができるよう、児童の実態や地域の状況に応じた指導を行う。	【達成状況】 児童の肯定的回答率 92.7% 数値指標を 2.7 ポイント上回った。 【次年度の方針】 ・地域学校園の食育推進と、家庭との連携協力により、地域の食材への関心や栄養に関する知識を深め、食に対する意識を高める。 ・「豊央ランナー」や各種検定の実施、「豊央サーキット」の実施などにより、体力の向上を図る。 ・交通安全教室、避難訓練を通して、正しい判断力と危機回避能力を育成する。 ・教職員が、感染症対策をはじめとする様々な健康・安全に関する共通理解を図るとともに、安全に関する強化週間を実施する。
1ー(4) 将来への希望と協働する力を育む教育の推進	A 5 児童は、自分のよさや成長を実感し、協力して生活をよりよくしようとしている。 【数値指標】 全体アンケート肯定的割合 ⇒児童 85%以上	① 一人一人に応じた支援を行ったり、活躍の場を設定したりする中で、よさを認め伸ばす指導に誠意をもって取り組む。 ② 互いの考えや思いを尊重し、相互に共有し、高め合える学級づくりに努める。 ③ 縦割り班による清掃や遊び、兄弟学年による活動などを通して、協働する心と互いに他を思いやる心を育む。	【達成状況】 児童の肯定的回答率 91.8% 数値指標を 6.8 ポイント上回った。 【次年度の方針】 ・以下の方針を、自己肯定感を高めるために掲げる。 ・今後も、一人一人に応じた支援を行ったり、活躍の場を設定したりする中で、よさを認め伸ばす指導に誠意をもって取り組む。 ・学年主任を中心に、それぞれの教員の互いの考えや思いを尊重・共有し、高め合える学級づくりに努める。 ・縦割り班による活動（清掃、とよリンピックなどの行事）、兄弟学年による活動などを通して、協働する心と互いに他を思いやる心を育む。

2ー(1) グローバル 社会に主体 的に向き合 い、郷土愛 を醸成する 教育の推進	A6 児童は、英語を使ってコミュニケーションしている。 【数値指標】 全体アンケート肯定的割合 ⇒児童 85%以上	① 外国語や外国語活動の授業を通して、英語を使ってコミュニケーションを図ろうとする態度を育てる。 ② 学校生活のあらゆる場面で外国語担当教諭やALTを活用し、生きた英語に触れる機会の充実を図る。	【達成状況】 児童の肯定的回答率 88.7% 数値指標を 3.7 ポイント上回った。 【次年度の方針】 ・地域にある高等学校や大学の留学生との交流活動を継続し、児童が積極的に英語でやり取りできるように支援する。また、外国語活動、外国語科の充実を図り、児童が英語を話してみたいと思えるような授業を展開する。また、ALTを活用し、授業以外でも英語でやり取りできるよう支援する。
	A7 児童は、宇都宮の良さを知っている。 【数値指標】 全体アンケート肯定的割合 ⇒児童 80%以上	① 生活科や社会科、総合的な学習の時間（宇都宮学）等で、身近な地域のよさを踏まえ、市全体の特徴を捉えられるよう学習活動を工夫していく。 ② 宇都宮の歴史や伝統文化、産業や特産物などについて理解し、郷土への愛情と誇りをもてるよう指導する。	【達成状況】 児童の肯定的回答率 87.0% 数値指標を 7.0 ポイント上回った。 【次年度の方針】 ・今後も各教科等や「宇都宮学」の学習を通して、知識理解を深め、郷土への愛情や誇りをもてる指導を継続して行う。
2ー(2) 情報社会と 科学技術の 進展に対応 した教育の 推進	A8 児童は、デジタル機器や図書等を学習に活用している。 【数値指標】 全体アンケート肯定的割合 ⇒児童 85%以上	① 各教科、領域において、パソコンやインターネット等を効果的に活用した授業を継続的に実施したり、授業研究会を通し、教職員の指導力向上を図ったりする。 ② 担任と図書館司書が連携して学習に必要な本や新聞などの資料を用意したり、調べ学習の場を工夫したりして、児童の学びを深める。 ③ 各教科や総合的な学習の時間（わたしたちの生活とコンピュータ）等で、プログラミング教育の推進を図り、児童のプログラミング的思考を育成する。	【達成状況】 児童の肯定的回答率 88.0% 数値指標を 3.0 ポイント上回った。 【次年度の方針】 ・来年度も ICT 機器活用についての校内研修や学年研修を充実させ、教師の指導力向上を図る。 ・1人1台端末をはじめとするICT機器の積極的な活用により、情報活用能力の育成を図る。 ・授業をはじめ様々な場面で、新聞や図書資料を気軽に活用できる環境の充実を図る。 ・各教科等でプログラミング的思考の育成を図る。
2ー(3) 持続可能な 社会の実現 に向けた担 い手を育む 教育の推進	A9 児童は、「持続可能な社会」について、関心をもっている。 【数値指標】 全体アンケート肯定的割合 ⇒児童 85%以上	① 自然に対する関心を高め、自然とのふれあい体験を重視するとともに、環境に対する問題意識をもたせ、問題解決に取り組む実践的な態度を育成する。 ② 総合的な学習の時間等を活用し、環境問題や国際理解、防災などのテーマを通して地域や世界の学習素材を生かしながら、教科の枠を超えた横断的、総合的なカリキュラムの開発・実践を行う。	【達成状況】 児童の肯定的回答率 89.8% 数値指標を 4.8 ポイント上回った。 【次年度の方針】 ・持続可能な社会について総合的な学習の時間や各教科等の学習の中で意識づけを図る。また、教科学習で得た知識を横断的な学習や実生活に生かせるような場の設定を行うことで、特に環境問題や防災に対する意識を高めていく。
3ー(1) インクルー シブ教育シ ステムの充 実に向けた 特別支援教 育の推進	A10 教職員は、特別な支援を必要とする児童の実態に応じて、適切な支援をしている。 【数値指標】 全体アンケート肯定的割合 ⇒教職員 90%以上	① 「ケース会議」や「校内支援委員会」を通して教職員間の情報共有を図るとともに、学級間の情報交換を密にして広く児童理解に努め、組織的に児童の支援に当たる。 ② 学習や日常生活の場面で困難さを抱えている児童に対し、各児童が学習内容を理解し達成感を味わうことができるようにする等、本人や保護者の意向を確認しながら、合理的配慮の提供に努め、個に応じた支援の充実を図る。	【達成状況】 教職員の肯定的回答率 100% 数値指標を 10.0 ポイント上回った。 【次年度の方針】 ・校内支援委員会の有効活用や、特別支援コーディネーターからの様々な情報提供により、支援を必要とする児童への対応力を向上させる。 ・担任及びかがやきルーム指導員、保護者が互いに共通理解を深めたり、関連機関（学生ボランティア含む）と連携したりしながら、引き続き、合理的配慮の提供を努めていく。

3- (2) いじめ・不登校対策の充実	A11 教職員は、いじめが許されない行為であることを指導している。 【数値指標】 全体アンケート肯定的割合 ⇒児童 90%以上	① 教育活動全体を通して、児童に「いじめは決して許されない」ことを指導する。 ② 「いじめゼロ強調月間」(5月・10月)を設けて、いじめ根絶に努めるとともに、互いに認め合う心を育てる。 ③ Q-Uやアンケートをもとに教育相談を実施し、児童の悩みを適切にとらえて指導にあたる。 ④ 家庭や地域との連携を深め、児童の実態把握に努める。	【達成状況】 児童の肯定的回答率 97.7% 数値指標を 7.7 ポイント上回った。 【次年度の方針】 ・全教職員共通理解の下、いじめの未然防止・早期発見に努め、万が一いじめが発生した時には当事者達が納得するまで根気強くチームで対応する。 ・道徳科や学級活動などで、いじめや生命尊重、自他との関係を題材とした授業を行い、望ましい集団作りを心掛ける。 ・児童が主体となっていじめが絶対にいけないと思える機会を作っていく。 ・家庭や地域との連携を引き続き深めていく。 ・年度初めの引継ぎの際に、児童の情報交換を丁寧に実施する。(日々の様子の活用。)特にトラブルがあった児童同士の情報の共通理解を図る。 ・保護者への発信の基礎基本を大切に。(トラブルがあった際の電話連絡。褒めることがあるときには、お手紙などでお知らせをして、保護者の方との良好な関係作りを努める。)
	A12 教職員は、不登校を生まない学級経営を行っている。 【数値指標】 全体アンケート肯定的割合 ⇒児童 90%以上	① 児童一人一人が存在感をもち、自己実現の喜びを実感できる学級経営を実践する。 ② 日常の児童観察、Q-U、アンケート、教育相談等を活用し、職員間の情報交換・共有、保護者との連携を図り、不登校の未然防止に努める。 ③ 不登校の兆候が見られた際は、保護者はもとより、SCMのサポートやSC、市の子ども家庭支援室、いきいきグループ等の関係機関との連携を密に行いながら、個に応じた支援を展開する。	【達成状況】 児童の肯定的回答率 96.6% 数値指標を 6.6 ポイント上回った。 【次年度の方針】 ・学年会の他、日常において不登校の兆候がある児童に関する情報の共有化を進め、不登校対応担当教員を中心とした情報交換会を通して全職員が関わっていく。 ・不登校対策に関する教育センターの資料を有効に活用して、未然防止対応に努める。 ・不登校傾向児童の居場所づくりに努める。(フリールームの活用) ・不登校傾向児童に対する個別の支援を努めていく。 ・学校のホームページを定期的に更新する。日々の児童の姿を公開することで、保護者の方への安心材料とする。 ・Q-Uの活用を引き続き行う。学級経営に生かす。
3- (3) 外国人児童生徒等への適応支援の充実	A13 学校は、一人一人が大切にされ、活気があり、明るくいきいきとした雰囲気である。 【数値指標】 全体アンケート肯定的割合 ⇒児童 90%以上	① 児童の様子 of 些細な変化を見逃さず、一人一人の状況に応じた対応・支援に努める。 ② 悩みや困難を抱える児童が安心してSOSを発信し、悩みを相談しやすい校内の雰囲気づくり、環境づくりに努める。 ③ 地域の教育力なども活用しながら、児童の主体的な活動を推進し、児童が学校生活全体を通して、成就感や達成感を味わうことができるようにする。	【達成状況】 児童の肯定的回答率 96.3% 数値指標を 6.3 ポイント上回った。 【次年度の方針】 ・次年度も継続して、よさを認め伸ばす指導支援を行う。 ・また、児童の主体的な活動を推進し、成就感や達成感を味わえるようにする。 ・教科担任制やローテーション道徳等を活用して、学年の教員が一致団結して学年の児童と関わり合う機会をつくる。
3- (4) 多様な教育的ニーズへの対応の強化			【達成状況】 【次年度の方針】

4－(1) 教職員の資 質・能力の 向上	A14 教職員は、分かる授業や児童にきめ細かな指導を行い、学力向上を図っている。 【数値指標】 全体アンケート肯定的割合 ⇒児童 90%以上	① 授業のねらいを明確にし、まとめや振り返り活動を適宜設けることで、育むべき資質・能力を明確にした学習活動を行い、学力向上に努める。 ② <u>学習指導法の工夫・改善（ICT活用・少人数指導・習熟度やＴＴ学習・かがやきルームの活用等）を図り、「分かる・できる・楽しい授業」を推進する。</u> ③ 思考力・表現力を育てるために、各教科での指導の在り方について研修を深める。	【達成状況】 児童の肯定的回答率 97.2% 数値指標を 7.2 ポイント上回った。 【次年度の方針】 ・ICT機器の効果的な活用により、児童が自分の考えを表現し、学び合える授業展開を工夫していくとともに、まとめ・振り返りを充実させていくことで学力向上に努める。 ・授業の中で児童がねらいをもって主体的に学習に取り組めるよう、実態に応じて個別最適な学びと協働的な学びの充実を図る。
4－(2) チーム力の 向上	A15 学校に関わる職員全員がチームとなり、協力して業務に取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケート肯定的割合 ⇒教職員 90%以上	① 学校運営の方向性を明確にし、学校運営上の諸事項について、会議や打ち合わせを通して、全職員の共通理解を図り、全校体制で校務の遂行にあたる。 ② 日頃より良好な人間関係づくりに努めるとともに、教職員一人一人の能力、得意分野を生かした組織作りに努め、やりがいをもって仕事ができるような環境を整える。	【達成状況】 教職員の肯定的回答率 100% 数値指標を 10.0 ポイント上回った。 【次年度の方針】 ・校長のリーダーシップのもとにまとめ、各々がもつ専門性で互いにフォローしていくことにより、より一層のチーム力を発揮していく。
4－(3) 学校における働き方改革の推進	A16 勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケート肯定的割合 ⇒教職員 90%以上	① 「働き方改革」を教職員一人一人が意識しながら日々の業務の内容や処理の仕方を精査し、業務の効率化を図っていく。 ② 学校スタッフの職務と勤務について共通理解を図り、学校の課題への対応や業務の効率的な実施が行われるよう、教職員の協働体制を構築する。 ③ 日課を工夫することで生まれる放課後の時間を有効に活用して、教材研究や校務にあたり、学校教育の充実につなげていく。	【達成状況】 教職員の肯定的回答率 92.9% 数値指標を 2.9 ポイント上回った。 【次年度の方針】 ・組織的かつ効率的な働き方を意識し、デジタルツールを活用した業務改善を図るとともに、大きな業務も主務者を中心とした確固たる協力体制のもとに推進していく。
5－(1) 全市的な学校運営・教育活動の充実	A17 学校は、「小中一貫教育・地域学校園」の取組を行っている。 【数値指標】 全体アンケート肯定的割合 ⇒保護者 80%以上	① <u>あいさつ運動等の交流活動や保健指導、給食指導、図書館教育などにおいて、小中学校間の連携を深めるとともに、児童の中学校入学への不安等の解消を図る。</u> ② <u>学力向上、心の教育、健康・体力向上等について小中教職員が協働して系統的な指導を推進できるような組織、体制を工夫していく。</u> ③ 小中連携の具体的な取組内容を、学校だよりやホームページ等で保護者にわかるよう発信していく。	【達成状況】 保護者の肯定的回答率 73.6% 数値指標を 6.4 ポイント下回った。 【次年度の方針】 ・保健指導・挨拶・食育・読書活動などで取り組んできた活動を継続し、活動の様子を保護者や地域に発信していく。 ・各種たよりに小中一貫教育の取組であることを明記し、保護者に発信できるようにする。
5－(2) 主体性と独自性を生かした学校経営の推進 5－(3) 地域と連携・協働した学校づくりの推進	A18 学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、教育活動や学校運営の充実を図っている。 【数値指標】 全体アンケート肯定的割合 ⇒保護者 85%以上	① 地域協議会や総合指導員との連携・協力を図り、地域人材等を有効活用した学習活動の展開を推進する。 ② 地域の民間企業や公共施設と連携した体験学習や専門家を活用した授業を年間計画に位置付けて実施していく。	【達成状況】 保護者の肯定的回答率 87.9% 数値指標を 2.9 ポイント上回った。 【次年度の方針】 ・改訂した各教科年間指導計画に、家庭や地域と連携した校外学習、出授業、学習支援等の内容を明記しておく、いつでも活用できるようにしておく。

6- (1) 安全で快適な学校施設整備の推進	A19 学校は、利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている。 【数値指標】 全体アンケート肯定的割合 ⇒保護者 85%以上	① 毎月の安全点検を確実にを行い、学校業務職員や機動班と連携して、危険箇所等の迅速な修繕と改善を行う。 ② 来校者、保護者の自家用車乗り入れについてルールを周知を図るとともに、不審者侵入防止等の具体的な安全対策を実施する。 ③ 学校デジタル連絡ツール「さくら連絡網」や学校ホームページ等を有効に活用し、児童の安全に係る情報を的確に発信する。	【達成状況】 保護者の肯定的回答率 87.5% 数値指標を 2.5 ポイント上回った。 【次年度の方針】 ・毎月の安全点検を確実にを行い、危険箇所等については、迅速な修繕・改善を行う。また、各教科の学習用具等においても、不備や不具合等を各学年や各教科主任を中心に教職員で共通理解し、次の学年や担当者に引き継ぐ。 ・来校者、保護者の自家用車乗り入れ制限の周知や、学校開放等の行事での見回りの協力依頼など、地域・PTA・縁下会と連携・協力を図る。 ・さくら連絡網等を活用し、児童の安全が最優先になるように連携・協力を呼び掛ける。
6- (2) 学校のデジタル化推進	A20 コンピュータなどのデジタル機器やネットワークの点から、授業（授業準備も含む）を行うための準備ができています。 【数値指標】 全体アンケート肯定的割合 ⇒教職員 90%以上	① 1人1台端末や校務システム等のデジタルを効果的に活用した授業改善や業務改善を、体系的・継続的に推進していく。 ② 授業研究会や職員研修等を通して、1人1台端末等のデジタルを授業や校務に効果的に取り入れるために必要な教職員の情報活用能力の定着を図る。	【達成状況】 教職員の肯定的回答率 95.2% 数値指標を 5.2 ポイント上回った。 【次年度の方針】 ・これまでと同様に情報担当を中心に、研究授業のみならず日常の授業での活用事例を職員間で共有することを積み重ねて、個人・全体のスキルアップを図る。 ・職員のスキルを生かし、児童へ還元する内容や方法を探る。
小・中学校、地域学校共通、本校の特色・課題等	B1 児童は、時と場に応じたあいさつをしている。 【数値指標】 全体アンケート肯定的割合 ⇒児童 90%以上	① <u>地域協議会や学校園などの地域ぐるみのあいさつ運動を展開する</u>とともに、校内でも生活向上委員会を中心に「あいさつ運動」を実施したり、教職員が進んであいさつしたりすることにより、進んであいさつができるような雰囲気づくりに努める ② 道徳科や学級活動の時間に、あいさつや礼儀について取り上げ、その大切さに気付かせながら理解を深める。	【達成状況】 児童の肯定的回答率 93.4% 数値指標を 3.4 ポイント上回った。 【次年度の方針】 ・生活向上委員会を中心としたあいさつ運動や放送、小中合同あいさつ運動を継続して実施していく。 ・道徳科や学級活動などで、あいさつを題材とした授業を行い、あいさつの大切さに気付かせ、理解を深められるようにする。 ・普段からのあいさつの充実をさらに図っていく。
	B2 児童は、きまりやマナーを守って、生活をしている。 【数値指標】 全体アンケート肯定的割合 ⇒児童 85%以上	① 「みんなのやくそく」の項目を生活目標に反映させ、朝の会等で確認し合うなど意識付けすることにより、基本的な生活習慣の定着を図る。 ② 児童一人一人のきまりやマナーに対する意識を高めるため、「みんなのやくそく」の推進を図る。また、教職員間で共通理解を図る。 ③ 道徳や学級活動などで、基本的な生活習慣に係る授業を計画的に実施する。	【達成状況】 児童の肯定的回答率 94.9% 数値指標を 9.9 ポイント上回った。 【次年度の方針】 ・今後も継続し、きまりを守ることや、マナーを意識させていくための指導の工夫改善を全職員で取り組んでいく。

B3 児童は、宿題など、家庭での学習を忘れずにやっている。 【数値指標】 全体アンケート肯定的割合 ⇒児童 85%以上	① 宿題や自主学習についての基本的な考え方（内容や量）について教員間で共通理解を図るとともに、児童には学習ガイダンスの充実や授業時間における学習指導等を通して、<u>基本的な学習習慣や学習規律の確立を図る。</u> ② 学習時間の目安や学習するときの約束事について、年度当初に家庭に知らせるとともに、学級懇談で家庭学習についての情報交換を行うなどして、家庭と協力体制が取れるようにする。 ③ <u>テレビやゲームの時間について、様々な機会に家庭に通知するなどして、学校と保護者が共通理解のもと指導を行う。</u>	B	【達成状況】 児童の肯定的回答率 90.6% 数値指標を 5.6 ポイント上回った。 【次年度の方針】 ・児童が主体的に学習に取り組めるように具体的な内容や方法を示したり、各学年の発達段階に応じたガイダンスを充実させたりし、家庭学習の過程や成果を称賛しながら意欲を高めていく。また、その様子を保護者にも伝える。
B4 児童は、休み時間や放課後などに、進んで運動をしている。 【数値指標】 全体アンケート肯定的割合 ⇒児童 80%以上	① 業間や昼休みを通して外遊びや学級の共遊を推奨するなどし、運動の習慣化を図る。 ② 体育の始業時に「豊央サーキット（補強運動）」を全校体制で取り組む。 ③ <u>各種検定（縄跳び）を設定することで、児童一人一人が目標をもって運動できるようにする。</u> ④ 熱中症対策等で校庭遊びができない日のために、体育館の開放を行うなど、運動の機会と場を確保する。	B	【達成状況】 児童の肯定的回答率 77.0% 数値指標を 3.0 ポイント下回った。 【次年度の方針】 ・今後は学校全体で業間や昼休みを通して外遊びや学級の共遊をさらに推奨したり、体育部や児童会活動等を中心に、体育の授業づくりの提案をするなどしたりして、さらに運動の習慣化を図る。 ・本校の日課は、放課後の時間が取りやすい日課であるので、放課後遊びの奨励をしていく。（帰宅時間を守ることを前提として。）
B5 児童は、「自分たちが学級・学校をつくる」という意識をもって、係活動や児童会活動、学校行事等に、主体的に参加している。 【数値指標】 全体アンケート肯定的割合 ⇒児童 90%以上	① 「自分たちが学級・学校をつくる」をテーマに、児童会や委員会活動、学級の係活動などの場で、児童の主体性や創造性、協働性などを育む。 ② 学校行事や縦割り班活動、縦割り清掃等を通じた異学年交流により、リーダーシップとフォロワーシップ、互いに他を思いやる心などを育む。	B	【達成状況】 児童の肯定的回答率 92.4% 数値指標を 2.4 ポイント上回った。 【次年度の方針】 ・児童会活動や学級活動における児童の主体的な活動を工夫し、充実させることにより、一人一人の自己有用感を高めていく。 ・自分がもつよさを自覚できるように支援し、それを学級やその他学校内での集団の中で生かしていけるように働き掛けていくことで、各々の可能性を広げていく。
B6 教職員は、主体的に授業に取り組み、同僚性を育みながら、指導法の工夫改善に努めている。 【数値指標】 全体アンケート肯定的割合 ⇒教職員 90%以上	① 学校課題に基づいて、研究のねらいを明確にしながら互いの授業を参観し合い、指導法について意見を交わすことによって授業改善に取り組む。 ② 高い自己研鑽意識に基づく主体的な自己研修と洗練された同僚性に基づく協働的なグループ研修の融合を図り、互いに学び合う職場づくりを推進する。	B	【達成状況】 教職員の肯定的回答率 100% 数値指標を 10.0 ポイント上回った。 【次年度の方針】 ・普段から同僚間の対話を通して、それぞれの指導方法のよさを共有し、互いのスキルアップを図る。 ・日常的に授業を互いに見合うことで、教員同士が学び合う雰囲気醸成していく。 ・各々が開発した教材を紹介、提供し合うことにより、指導の幅を広げていく。

〔総合的な評価〕

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

令和6年度「うつのみや学校マネジメント」全体アンケートでは、肯定的回答（「とても思う」と「まあ思う」を合わせたもの）の割合が数値指標を達成した項目は、26項目中24項目であった。そのうち、5ポイント以上高い項目が17項目であった。一方で、A17「学校は、『小中一貫・地域学校園』の取組を行っている。（保護者）」の質問においては、肯定的回答割合が数値指標を6.4ポイント下回っているが、令和3年度は63.8%、令和4年度は70.8%、令和5年度は71.5%、令和6年度は73.6%と推移しており、令和3年度からは9.8ポイント増加している。今後も引き続き、学校園運営部会、各種部会及び分科会、学校園挨拶運動、一人配置教職員による連携等を推進するとともに、保護者へ向けての周知を図っていく。

令和5年度と令和6年度の全体アンケートにおける肯定的回答割合を比較してみると、全体的にはあまり増減は見られないものの、A8「児童生徒は、デジタル機器や図書等を学習に活用している。（保護者）」の質問で5ポイント以上の増加が見られた。児童がICTを活用した学習に取り組んでいる状況への理解が伺える。また、A12「教職員は、不登校を生まない学級経営を行っている。」、A13「学校は、一人一人が大切にされ、活気があり、明るくいいきとした雰囲気である。」、A14「教職員は、わかる授業や児童生徒にきめ細かな指導を行い、学力向上を図っている。」の質問については、保護者の評価が前年度比で5ポイント以上下降していることから、不登校を生まない取組や居心地のよい学校づくり、きめ細かな学習指導の充実等をこれまで以上に推進していくことが求められている。

令和6年度全体アンケートにおける豊郷中央小学校と宇都宮市全体の肯定的回答割合を比較してみると、A6「児童生徒は、英語を使ってコミュニケーションしている。（児童・教職員）」、A8「児童生徒は、デジタル機器や図書等を学習に活用している。（保護者）」、A11「教職員は、いじめが許されない行為であることを指導している。（地域住民）」、A16「勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる。（教職員）」、A17「学校は、『小中一貫教育・地域学校園』の取組を行っている。（児童）」、A18「学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、教育活動や学校運営の充実を図っている。（児童）」、B1「児童生徒は、時と場に応じたあいさつをしている。（地域住民）」、B2「児童生徒は、きまりやマナーを守って、生活をしている。（教職員・地域住民）」の質問で、5ポイント以上高い。特に、英語教育に係る児童及び教職員の肯定的回答割合が宇都宮市全体と比べて上回っている。

A1「児童生徒は、他者と協力したり、必要な情報を集めたりして考えるなど、主体的に学習に取り組んでいる。（児童91.2%、教職員97.6%、保護者87.6%）」及びA14「教職員は、分かる授業や児童生徒にきめ細かな指導を行い、学力向上を図っている。（児童97.2%、教職員100%、保護者81.8%）」について、児童及び教職員の肯定的回答割合は高評価を得ている。これは、日頃から教職員が「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実し、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善に取り組んできて得られた一定の成果と考えられる。一方、保護者の評価がいずれも前年度を下回っていることから、今後とも、黒板やノートを使った従来の学習形態に加え、ICT等の先端技術を効果的に取り入れるなどして、きめ細かな指導の充実を図るとともに、児童の学力の向上に努めていく。

A6「児童生徒は英語を使ってコミュニケーションをしている。（児童88.7%）」、A8「児童生徒は、デジタル機器や図書等を学習に活用している。（児童88.0%、教職員87.3%）」について、英語教育やICT等を活用した教育に係る児童及び保護者の肯定的回答割合は高評価を得ている。学区の大学や高校の留学生との交流活動の活性化やICT等を活用した授業改善の推進による成果と考えられる。引き続き、グローバル社会に主体的に向き合う活動の充実に取り組むとともに、学習指導においては、各教科等のねらいを踏まえた「リアル」と「デジタル」がベストミックスされた活動を実現できるよう、「デジタルの力でリアルな学びを支える」との基本的な考えに立ち、1人1台端末をはじめとしたICT機器を積極的に活用していく。

A11「教職員は、いじめが許されない行為であることを指導している。（児童97.7%、保護者77.8%）」、A12「教職員は、不登校を生まない学級経営を行っている。（児童96.6%、保護者89.4%）」、A13「学校は、一人一人が大切にされ、活気があり、明るくいいきとした雰囲気である。（児童96.3%、保護者88.3%）」について、児童指導や学級経営に係る児童及び保護者の肯定的回答割合が前年度を下回る結果となった。日頃から、いじめ・不登校の兆候等児童に関する情報の共有化や事案発生時の組織的な対応に努め、児童一人一人に寄り添った支援を組織的に行ってきているが、より一層の充実を図る必要があると考えられる。引き続き、「いじめ防止基本方針」を全職員が共通理解した上で、全校体制でいじめの根絶に取り組むとともに、学びに向かう集団の育成に取り組み、互いに認め合う安心感のある学級を目指していく。また、それを基盤として、規範意識の醸成、いじめを許さない態度の育成、不登校対策の取組の充実の徹底に努めていく。

B1「児童生徒は、時と場に応じたあいさつをしている。（児童93.4%、教職員90.5%、保護者85.7%）」、B2「児童生徒は、きまりやマナーを守って、生活をしている。（児童94.9%、教職員95.2%、保護者92.0%）」について、児童、教職員、保護者の肯定的回答割合はおおむね90%を上回る結果となった。宇都宮市全体の結果と比較しても、全て平均値を上回っていることから、特に「あいさつ」については、「えがお なかよし あいさつの花を 咲かせよう！」を合言葉に、日頃から教職員、児童、保護者、地域住民が一体となって気持ちのよい挨拶を心掛ける環境づくりに努めてきた成果と考えられる。今後も、卒業生が小学校に来て行う「小中あいさつ運動」や「宇都宮ブルックス」のマスコット「ブルッキー」を招待して行う「地域協議会あいさつ運動」、あいさつ等標語看板の設置を行うなど、児童の意識の高揚を図っていく。

7 学校関係者評価

全体的には、児童、保護者、教職員が多くの項目において高評価しており、未来を担う子供たちとして成長しているとされる。学校職員の熱心な取組もあり、児童と良好な関係がアンケートからうかがうことができる。

多くの評価項目で、児童・教職員・保護者・地域住民の肯定的評価割合が令和5年度と比較して大きく変化しないことから、安定した取組が行われていると考えられる。一方で、いくつかの評価項目では前年比を下回る結果も見られる。また、地域住民としては、児童との触れ合いが少なくなっており、児童の本当の姿が見えづらくなっていること、大人と子供の関わりが希薄になっていることに課題を感じている。

A2「児童は、思いやりの心をもっている。」では、児童、教職員、保護者、地域住民による肯定的回答割合はすべて90%以上と高評価である。今後は、児童を中心に保護者や地域住民が関わりをもつ機会を充実させ、ともに活動する中で児童のよさを実感できるような取組の推進を期待する。

A13「学校は、一人一人が大切にされ、活気があり、明るく生き生きとした雰囲気である。」では、児童の肯定的回答割合は96.3%、教職員は100%と高評価であるが、保護者の肯定的回答割合が88.3%と令和5年度より5.3ポイント下回る結果となっている。児童が明るく生き生きとした雰囲気で学校生活を送れている様子を保護者にも伝わるようにしていくことが必要である。

A17「学校は、『小中一貫教育・地域学校園』の取組を行っている。」では、保護者の肯定的回答割合は73.6%であり市の平均を下回るものの、令和5年度の数値より向上している。様々な取組は行っているため、引き続き広報活動を充実させていく必要がある。

A19「学校は、利用する人に安全に配慮した環境づくりに努めている。」では、地域に向けた施設利用の連絡や、学校の工事に関する通知等により、安全への配慮だけでなく安心して使用することができている。

B1「児童は、時と場に応じたあいさつをしている。」では、児童の肯定的回答割合が93.4%と最も高い値となっており、子供たち自身が挨拶をしている実感を得ていることが素晴らしい。地域全体で子供たちを見守りながら、挨拶溢れる町づくりにつながるとよい。

B2「児童は、きまりやマナーを守って、生活している。」では、児童、教職員、保護者、地域住民のすべてにおいた肯定的回答割合が市の平均より高い結果となった。未来を担う子供たちにとって社会性を育むことは重要であることから、今後も指導の充実を図れるように願いたい。

8 まとめと次年度へ向けて（学校関係者評価を受けて）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

「かしこく なかよく たくましく」を合言葉に、確かな学力の向上、豊かな心の育成、健やかな体の育成を目指し、全教職員の共通理解のもと、教育活動の見直しと改善を図る。

児童や保護者、地域から愛される「開かれた学校づくり」に努めるとともに、地域の人々や地域の歴史、自然環境など地域の教育力を積極的に活用して、とよおう水田での自然体験活動や学区の大学、高校、中学、幼稚園や保育園等との交流活動など、地域に根ざした「特色ある教育活動」の一層の充実を図っていく。

地域学校園の小・中学校の交流活動や教職員の研修における交流等を通して、義務教育9年間を見据えた系統的・継続的な指導の充実に努める。特に、「安全教育」「体力向上」「保健教育」「食育」の4つの教育分野において、地域学校園の共通理解のもと見通しをもって取り組んでいく。

GIGAスクール構想に基づいた授業づくりでは、ICTを効果的に活用した学習をより一層充実させることで、情報社会と科学技術の進展に対応した教育を推進するとともに、地域の高校や大学の留学生との交流を通してグローバル社会に主体的に向き合う活動では、英語教育や国際理解教育の充実

に努め、英語によるコミュニケーション能力の向上を図るなど、本校の特色ある取り組みに全校体制で取り組んでいく。

日頃から児童同士が互いに認め合い、励まし合うことのできる人間関係づくりに努めるとともに、全教職員が共通理解の下、いじめや不登校の防止と早期発見に努め、いじめや不登校が発生した時には当事者の気持ちに寄り添って個別の支援を行ったり、迅速に関係機関と連携を図ったりしていく。

本校の学校運営の方針、教育活動の状況、学習指導、児童指導、健康・体力、本校の特色など、教育に係る情報を積極的に公表するとともに、地域や保護者からの声を学校運営に反映し改善を図りながら、学校と保護者、地域が協力・連携した教育活動の充実

に努めていく。

学校評価において特に保護者の肯定的回答割合が低いA11「教職員は、いじめが許されない行為であることを指導している。」、A17「学校は、『小中一貫教育・地域学校園』の取組を行っている。」、B4「児童は、休み時間や放課後などに、進んで運動している。」に関して、取組の一層の充実を図るとともに、学級懇談会等で丁寧な説明を行ったり、学校だよりや学校ホームページ等を通して情報を発信したりしていくことで、保護者への理解・啓発に努めていく。

